

題 材	年 組 番	9 問
わたしたちの生活と生物育成	氏名	

《教科書 P. 136～P. 139》

1. 生物育成とわたしたちの生活について、(①)～(④)に入る適切なことばを答えよう。

- (1) 人間が作物や家畜などの生物の世話をして、自分たちの生活に役立てることを(①)という。
- (2) 生物育成の技術を有効活用することは、自然環境を保全し、(②)な社会を築くことに役立ちます。
- (3) 生物育成では、必要なものを(③)により多くつくり出すために、さまざまな技術が開発されてきました。しかし、見栄えのよい作物を多く得るためであっても、(④)が多く残留するような使い方は認められていません。

①	生物育成
②	持続可能
③	短期間
④	農薬

《教科書 P. 144》

2. 作物の栽培方法について、あてはまるものを語群から選び、答えよう。

- (1) 作物の成長には、いろいろな環境要因が影響します。作物の環境要因には、(①) 要因、土壌要因、生物要因があります。これらの育成環境を管理することで、作物を一年中収穫することが可能となりました。

① 要因

日射量、日長（昼間の長さ）、降水量、温度、湿度など

土壌要因

土壌中の（ ② ）・水分・空気など

生物要因

（ ③ ）・鳥獣・昆虫・微生物や土中の小動物など

- (2) 屋外の畑で作物を育てる方法を（ ④ ）といい、鉢やプランターなどで育てる方法を（ ⑤ ）という。また、ビニルハウスや温室などで育てる方法を施設栽培という。近年では植物工場が広がりをみせている。

①	気象
②	養分
③	雑草
④	露地栽培
⑤	容器栽培

語群

露地栽培

容器栽培

雑草

気象

養分

題 材	年 組 番	11 問
作物の栽培	氏名	

1. 土づくりについて、() にあてはまる言葉を語群から選び、答えよう。

《教科書 P. 146～147》

- | | |
|---|--------|
| (1) 生物の育成に適した土をつくるには、たい肥などを加えて耕し、
(①) 構造にすることが大切である。 | ① 団粒 |
| (2) 作物は、一般に中性から弱酸性の土が適しているので、苦土石灰を
土に混ぜて酸性を中性に戻すなど、(②) を図る。 | ② 酸度調整 |
| (3) 畑や水田のように、毎年作物を育てて収穫していると、生育に必要な
養分が少なくなる。そのため、チッ素、リン、カリウム、カルシウム、
マグネシウムなどを肥料として土壌に補う必要がある。その中で
もチッ素、リン、カリウムは作物の生育に大きく影響することから、
肥料の (③) と呼ばれる。 | ③ 三要素 |
| (4) チッ素は、(④) や根の成長に役立つ。欠乏すると葉は黄緑色
になり、生育が急におとろえる。 | ④ 葉 |
| (5) リンは、成長のさかんな部分や花、(⑤)、たね、新根の発育に
役立つ。欠乏すると下葉が青紫色になる。 | ⑤ 果実 |
| (6) カリウムは、(⑥) をさかんにし、果実のつき方や育ちをよくし、根をよく育てる。
欠乏すると葉の周囲が黄色になる。 | ⑥ 光合成 |

語群 葉 三要素 酸度調整 団粒 果実 光合成

2. 栽培の管理について、() にあてはまる言葉を語群から選び、答えよう。

《教科書 P. 150》

- | | |
|-------------------------------------|--------|
| (1) 発芽した後、不要な芽を取り除く作業を (①) という。 | ① 摘しん |
| (2) 茎が伸びてきたら、棒で茎を支える。この作業を (②) という。 | ② 支柱立て |
| (3) 余分なえき芽を取る作業を (③) という。 | ③ 摘芽 |
| (4) 雑草を取り除く作業を (④) という。 | ④ 除草 |
| (5) 苗の根元に土をかけ、苗が倒れるのを防ぐ作業を (⑤) という。 | ⑤ 土寄せ |

語群 間引き 土寄せ 摘しん 摘芽 除草 定植 鉢上げ 支柱立て